

社会学部報

- ◇6月20日 学部研究会 発表者 梶原助教授「日本英語教育の問題点」、塩原講師「レファレンス・グループ行動の理論」。
- ◇6月22日 大道学部長は、学院外国留学規定により、欧米の広域圏の視察調査と世界社会学会に出席のため出発。
不在中は、余田教授が学部長を代行。
- ◇6月22日 仏国立労働科学研究所事務局長 Y. ドラモット氏の特別講義「フランス産業社会学の現況」を学部主催で催した。
- ◇7月22日 米ブランディス大学教授・米社会学会会長 E. C. ヒューズ氏の「専門職業化の問題」についての特別講義を学部主催で催した。

- ◇8月20日 丹羽講師は、ハーバード・エンチェンにより、ハーバード大学へ約一年留学のため出発。
- ◇8月25日 万成助教授は、マサチューセッツ工科大学の招へいをうけ、約半年留学の予定で出発。
- ◇9月17日 大道学部長、留学を終え帰校。
- ◇9月18日 ヒルバン教授、米国より帰校。
- ◇10月1日 武田建専任講師新任。

会員の著書 大道安次郎教授「神戸」（編著）有斐閣、3月。
蔵内数太教授「社会学」培風館、5月。
田中国夫教授「心理学と因子分析」（三好稔氏編・共著）誠信書房、9月。

学会消息

◇日本文学会

今年の英文学会大会は青山学院で、5月1日及び2日に行なわれ、英文学関係3、米文学関係2、英語学関係2の7ヶ所に分れて、研究発表及びシンポジウムが行なわれた。本学部から半田講師が出席した。

◇日本言語学会

東京教育大学で本年度の大会が5月2日及び3日に行なわれ、半田講師が出席した。

◇日本独文学会

5月19、20日の両日、春季大会が東京外国語大学で行なわれ、本学部から本岡助教授が出席した。シンポジウムの課題は、「日本文学とドイツ文学の交流」及び「ドイツ語教育のあり方」であった。

◇日本新聞学会

1962年度総会、春季研究発表会は5月25、26両日、松本市信州大学文理学部で開催。マスコミ研究の方法論、国民生活時間調査、新聞学科教育の現状などについての研究発表や討論が行なわれた。秋季研究発表会は10月26、27両日、慶応義塾大学で開催。マスコミと芸術、TVニュース、選挙とマスコミなどについて研究発表、討論を行なった。本学部からは両回とも藤原教授が出席した。

◇関西社会学会

5月26日、27日愛知大学において第13回大会が開かれ、本学部からの発表は、倉田講師の「T・パーソンズ理論の発展」、万成助教授、遠藤助手の「日本の初期企業家の社会的性格」、遠藤助手の「監督者のリーダーシップとコミュニケーション」の三題目であった。

◇日本心理学会

第26回日本心理学会大会が、本学で7月10日から12日までの3日間にわたって行なわれた。本学部からは田中教授が、「養育行動と子どものパーソナリティの社会心理学的研究—農山村と“心境同人”の場合—」の題目で、研究発表を行なった。

◇日本教育心理学会

日本教育心理学会大会が、8月30日から9月2日までの4日間、東北大学で行なわれた。本学部からは田中教授が、「養育行動と子どものパーソナリティの社会心理学的研究—沖縄の場合—」の題目で研究発表を行なった。

◇アメリカ社会学会

第五十七回アメリカ社会学会がワシントンの Shoreham Hotel で、1962年8月29日から9月2日まで開かれた。Medical Sociology, Methodology, Criminology, Social Psychology, Social Education などの各部会を中心に、アメリカ各地から多くの専門家が集り、最終日には、Development Areas, Foundations and Applied Sociology, Law, Political Sociology, Productivity and Supervision, Sociology and Other Sciences, Urban Planning などの問題について総括的な報告と討論があった。日本からは数人の出席者があり、本学部からは大道教授が出席した。

◇世界社会学会

第五回世界社会学会がアメリカ社会学会に引続いて、9月2日から9月8日まで同じ場所のワシントンの

Shoreham Hotel で開かれた。共通テーマは the Sociologists, the Policy-Makers and the Public と the Sociology and Development と the Nature and Problems of Sociological Theory であった。世界各国からの参加者も多く、ソ連からも十数人の参加者があり、日本からも二十人前後の参加者があり、本学部からは大道教授が出席したが、国際学会としては、極めて盛会であった。日本からは、日本の社会学者の著書がレジュメとともに展覧されたことが参加者の注目を浴びていた。また日本から理事に東大の尾高教授が選出された。

◇日本時事英語学会

10月13日、同志社大学において大会が開催され、研究発表とシンポジウムが行なわれた。本学部からは栃原、西尾助教授が出席した。

◇日本社会心理学大会

10月13日、14日の両日、京都大学において第3回大会が開催され、本学部からは田中教授が「政党への態度と生活意識との連続性について」と題して発表を行ない、遠藤助手は「組織とパーソナリティ」をテーマとするシンポジウムの問題提出者として発表を行なった。

◇日本基督教学会

10月15日、16日の両日、関東学院大学において開かれた学会に、本学部から山中助教授、熊谷宗教主事が出席した。発表者は大体若手であったため、総会のときに次年度からの研究発表者として多少年輩者が要望された位である。学会最終の日程である「歴史と神学」というシンポジウムにおいて本大学神学部の松村教授が、京大武藤一雄教授、信大吉村善夫教授と共に発題された。相当活潑な討議がなされたが、単なる学術の問題ではなく、教會的、信仰的立場が討議の背景にあっただけに、他の学術会議におけるよりも、この様なシンポジウムの果実の点に関して望みももちがたい感じを聴衆者にあたえた。

◇日本アメリカ文学会

10月26日、同志社大学において大会が開催され、研究発表とシンポジウムが行なわれた。本学部からは、栃原助教授が出席した。

◇日本基督教社会福祉学会

10月29日、第3回学会大会および総会が、東京都世田谷区の東京育成園で開催され、「基督教社会事業の本質と問題点」と題して、パネル討議が行なわれた。また本学部竹内愛二教授が会長に再選された。

◇村落社会研究会

東北大学において、10月30、31日の両日、第10回大会が開かれ、余田教授が出席した。なお事務局を本学社会学部におくことになった。

◇日本老年社会学会

日本老年学会の下部組織である老年社会学会は、老人問題を社会科学の立場からとりあげることを目的としている。日本社会学会の開催日と同じ11月3、4日の両日、東京の都市センター・ホテルで開かれた。全国各地から約150名ぐらいの参加者があり、本学部からは大道教授が出席した。今年度のテーマは、「老人の住い」の問題と「老人の経済生活」の問題であった。

◇日本社会学会

東洋大学において、11月3、4日の両日、第35回大会が開かれ、本学部光吉助手が、「家族—動態分析の一視角」の研究発表を行なった。シンポジウムは、「日本における政治の社会的基底」および「マス・コミュニケーション研究における方法と理論」であったが、後者には宇賀助手が討論者として参加した。

なお、大道教授が、今回、学会理事に選ばれた。

◇日本社会福祉学会関西西部会

11月10日、第28回学会関西西部会研究例会が本社会学部において開催され、本学部太田義弘助手が「青少年の攻撃性について」と題して研究発表を行なった。

◇日本ソーシャル・ワーカー協会

11月23日、第3回総会が、大阪市北区の日本生命中之島ホールで開催され、「コミュニティ・ディベロプメントの諸問題」と題してパネル討議が行なわれた。本学部竹内愛二教授が会長に再選された。

◇日本社会福祉学会

11月24、25日の両日、第10回学会大会および総会が、大阪市北区の日本生命中之島ホールで開催された。各専門部会別研究発表につづいて「社会福祉における住民参加」と題してパネル討議が行なわれた。また本学部竹内愛二教授が理事に選出された。

◇日本地域学会

リージョナル・サイエンス・アソシエーションの日本部会として、この度日本地域学会の設立が企てられ、その設立総会が12月7日東京の学士会館本郷分館で開催された。本学からは大道教授が出席し、『「広域社会」研究の現代的課題』について、研究報告を行なった。